

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 発達障害の種類ごとに苦手なことの要因を踏まえ、どのような支援が可能かを具体的な事例で学ぶことができた。また、演習の中で問題が多いと感じる子どもにも好ましい行動が多いことに気づき、肯定的な対応を意識して接すると、子どもに話しかけられる回数が増えてきた。職場では子どもの悪い面やできないことを話題にしがちだが、今後は良い面やできることに着目し、子どもたちが自己肯定感を高められるよう支援していきたい。

- ◆ 「～したら～できる」という言葉はつい日頃から使いがちだが、意欲を引き出すものではないと改めて学び、声掛けを見つめ直そうと思った。ティーチャーズトレーニングの演習で普段の様子を書きおこしてみると、現場では冷静に考えられないこともしっかり考えることができたので、今後もやってみたいと思った。望ましくない行動をしている子がいるとそちらに注目しがちだが、他の子をほめたりして自分で気付ける環境を作ることも人的環境の一つだと思った。

- ◆ 障がいのある子どもとの関わり方はとても難しいと思う。言葉の選び方やその子どもの特徴を知ったうえで関わらなければならないと考える。他の子どももいるため、障がいのある子どもだけに時間をかけることがどうしてもできないのが現実なのではと思う。今は障がいのある子どもへの支援が少しずつ広がってきているので、その子どもが生活しやすくなるよう周りでサポートしていければと思う。私も少しずつでも役立つよう関わっていきたい。

- ◆ 今までは、皆が同じように出来なければならないと、こちら側も熱が入ってしまうこともありました。今回の講義で支援の考え方を知り、一つの考え方にとらわれて硬くなる必要はないのだと私自身も気持ちが楽になりました。まずは障害の有無に関わらず、困ったことがあれば子どもの方から手助けを求められるよう、信頼性や環境づくりを大事にしていきたいです。その子の特徴を捉え、一人ひとりに合った対応、支援を充実させていきたいと思います。

- ◆ 今回の研修でティーチャーズトレーニングの内容について学びました。初めて聞いた言葉でしたが、内容については、子どものことより大人たちの対応の大切さを感じました。子どもは大人の言葉をよく聞き、よく見ているので、少しでも子どもを肯定する言葉で話しかけていきたいと思いました。また、「無視＝待つ」という温かい行動ということについても深く共感しました。無視のコツも学べたので、上手に子どもと関わっていきたいと思います。